

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

社会に開かれた知的障がい支援学校として、地域や関係機関及び府立むらの高等支援学校との連携を深める中で、「自分」「つながり」「チャレンジ」をキーワードとして、一人ひとりの児童・生徒の未来へ向かう夢や希望をはぐくむ学校をめざします。

1 「自分」

- ・自分の願いや自分らしさを大切に、自分の思いを伝え、自分の力でやりとげることのできる児童・生徒を育てます。

2 「つながり」

- ・小学部、中学部、高等部を通じて同年齢・異年齢間の交流を図り、人とのつながりを大切に、互いを思いやり、認め合い、協力する児童・生徒を育てます。

3 「チャレンジ」

- ・「やってみよう!」「できた!」「できる!」の体験を積み重ねることで自己肯定感を育み、新しいことにも自信を持ってチャレンジする児童・生徒を育てます。

2 中期的目標

1 知的障がい支援学校としての専門性の向上

(教務部・支援部・研究部・生活指導部・情報教育部・健康教育部・各学部・首席)

- (1) 児童・生徒の多様なニーズを的確に把握し、児童・生徒の学ぶ喜びを引き出すことのできる授業力や様々な指導方法について、研修と研究の充実を図り、知的障がい支援学校としての専門性と教師力の向上をめざす。
- ※ 「実態把握のための共通軸」となる客観的評価方法の導入を図る。
 - ※ 各教科・領域における指導の指針となる「指導参考資料」の整備に取り組む。
 - ※ 全校的な研究課題として「性教育～人との適切なかわり方～」を設定し、研究を進める。
 - ※ 積極的に学校外の研修に参加し、先進的な取り組みを学び、校内に取り入れる基礎づくりを行う。
- (2) 児童生徒が学部学年の枠を越えた活動を実施し、『自分』を確認できる取り組みを推進する。
- ※ 全校清掃活動「クリーンタイム」を校外にも広げ、地域の清掃活動も実施する。
- (3) 枚方市域の支援センター校として、巡回相談や支援教育に関わる情報発信の充実を図り、多種多様なニーズに応える支援体制を確立する。
- ※ 地域支援のための研究・実践を更に充実・推進する。
 - ※ リーディングスタッフ、コーディネーターを中心に校内の支援力向上に努め、支援センター校としての機能・充実を図る。
 - ※ リーディングスタッフ、コーディネーター、学部・学年の校内支援窓口（支援部教員）を中心に校内ケース会議の充実を図る。
 - ※ 地域に向けた教育実践発表会（教材・教具の紹介等）を計画・実施する。

2 安全で安心な学校づくり

(総務部・健康教育部・生活指導部・支援部・各学部・首席)

- (1) 防災、減災教育を充実するとともに、大規模災害への備えを行う。むらの高等支援学校及び本校の教職員が高い危機管理意識を持ちながら、その連携体制の確立を進め、両校の児童生徒のための「安心・安全な学校づくり」をめざす。
- ※ 様々な想定での避難訓練（火災・地震等）を実施する。
 - ※ PTAと協力し、被災時に活用できる児童生徒の個人備蓄を進める。
- (2) 些細なことも共有できる保護者と学校との関係性づくりを強化する。
- ※ 保護者と密に連携しながら、不登校児童生徒への登校支援を強化する。
 - ※ 保護者からの様々な相談や学校としての課題等に迅速に対応するため、「相談対応チーム」を設置する。
- (3) 「良い教育は教職員の健康から!」をスローガンに、ワークライフバランスの取れた職場をつくりあげる。
- ※ 「今はやらなくてもよい業務」をピックアップするなど、可能なところから業務のスリム化を行う。
 - ※ 教職員の残業時間の大幅な縮減に取り組む。
 - ※ 業務の平準化を行うために、各分掌に分掌長をサポートする副分掌長を配置する。また、学年に副主任を配置する。

3 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実と活用

(支援部・教務部・進路部・各学部)

- (1) 「個別の教育支援計画」について研究と研修を進める中で、有効かつ機能的なものへと深化させ、個々の児童・生徒への支援を具体化し、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、日々の教育実践（授業実践）に反映する。
- ※ 教職員の合理的配慮についての理解を深め、本人・保護者との合意形成を図る。
 - ※ 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成手順や様式等を検討し、完成をめざす。
- (2) 保護者及び進路先関係機関等との連携を図るためのツールとして活用する。
- ※ 「個別の教育支援計画」の有効活用について保護者対象学習会を実施する。

4 キャリア教育を柱とした、小学部・中学部・高等部一貫教育の実践

(進路部・研究部・支援部・生活指導部・教務部・各学部・首席・高等部職業コース)

- (1) 小学部・中学部・高等部において「キャリア発達の観点」を整理し、系統的で一貫した本校に適したキャリア教育プログラムを完成させる。
- ※ 新学習指導要領も視野に入れながら「キャリアマトリックス枚方支援学校版」を完成させ、有効な活用方法を探る。
 - ※ 「高床式砂栽培」の活用計画を作成し、実践を深めていく。
- (2) 児童・生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、進路指導の充実・発展を図る。
- ※ 高等部卒業時の就労率のさらなるアップをめざす。
 - ※ 職業コースのありかたを検討していく。
- (3) 教員の学部間交流を行い、交流で学んだことを自学部の実践に生かす。
- ※ 教員の日学部間交流を実施し、各学部の実践の幅を広げていく。

5 地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築

(情報教育部・総務部・生活指導部・健康教育部・文化部・首席・部主事)

- (1) 広報誌「仲間たち」を発行するとともに、日々の実践をホームページのブログで公開する。
- ※ 地域・関係機関をはじめ、多くの方々に対して、積極的な情報発信に努め、地域に愛される「開かれた学校」をめざす。
- (2) 学校間交流・居住地校交流・地域交流活動を推進する。
- ※ クラブ交流等を通じた学校間交流、小・中学部児童生徒の居住地校交流、学校行事等を通しての地域のみなさまとの交流及び共同学習を積極的に実施する。
 - ※ 児童生徒会活動の場を校外にも広げ、地域における「あいさつ運動」を推進する。
 - ※ むらの高等支援学校との新たな交流内容・交流方法について検討、実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>平成 29 年 12 月実施 【学校教育自己診断】の回収率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒 81% (301 名/373 名) 保護者 83% (303 名/365 名) 教職員 100% (165 名/165 名) ・全項目を通じて得られた評価を平均して見ると、保護者・教職員ともに肯定的な評価が 80% 以上となっている。児童生徒からの評価では、否定的な評価が 3.7% であり、全体的に高い評価となっている。 <p>【児童生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通じて「わからない」「未記入」が 20~50% 程度見られる。 ・「学校での勉強はわかりますか」の肯定的評価が 2 ポイント減り、より児童生徒それぞれに応じたより丁寧な指導が必要である。 ・「先生は、やくそく（きまりやルール）について、教えてくださいか」の肯定的評価は 4 ポイント増加している。 ・「校外学習、修学旅行や宿泊学習は楽しいですか」、「運動会や学習発表会は楽しいですか」については、学部が上がるにつれて否定的評価高くなる傾向がみられた。児童生徒のニーズの多様化が要因の一つかもしれない。 ・「将来（進路）について、先生はいろいろと教えてくださいか」は、全学部とも昨年度より肯定的な評価が高くなり、高等部では 19 ポイント増加した。キャリア教育の成果が出始めている。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは、学校へ行くことを楽しみにしている」「学校は、子どもの健康や安全について充分配慮・対応している」「運動会や校外学習、宿泊学習などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫がされている」「学校の様子を懇談会や授業参観・連絡帳・便りなどによって知ることができる」「個別の教育支援計画は、本人・保護者のニーズをもとに作成され、適切に評価されている」「教職員は、子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を行っている」では、90% 以上の肯定的評価をいただいている。 ・「運動会や校外学習、宿泊学習などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫がされている」は学部が上がるにつれて、否定的評価が少し増加。保護者ニーズとのずれが要因の一つかもしれない。 ・「学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に適切に対応している」「学校は、将来の進について、必要な情報や見学の機会を適切に提供している」では 90% 以上の肯定的評価をいただいている。 ・「学習環境面として、学校の施設・設備は満足できる」では、否定的な評価が微増している。年々、児童生徒数が増加しており、特別教室の HR 教室への転用などと関連していると推測する。 <p>【教職員用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童生徒の実態に応じた様々なコミュニケーションの方法を把握し、活用している」「児童生徒の実態に応じた、専門性のある授業を行っている」「学校は、児童生徒の健康や安全について充分配慮・対応している」「運動会や校外学習、宿泊学習などの学校行事は、児童生徒が参加しやすいように工夫をしている」「学校は児童生徒の発達段階や実態に応じて生命を大切にす心や社会ルールを守る態度の育成に努めている」「学校での様子を懇談会や授業参観・連絡帳・便りなどによって、知らせている」「個別の教育支援計画は、本人・保護者のニーズをもとに作成し、適切に評価している」「児童生徒の障がいやその特性について理解している」「教職員は、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を行っている」「教職員は、教育活動全般において、児童生徒の人権を尊重する姿勢で指導を行っている」では 90% 以上が肯定的な評価をしている。 ・「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」で否定的な評価が上がってきており、校内での取り組み（毎月の運営委員会後、人権委員会を開き、情報共有等を実施）の周知が課題である。 ・「校長は自らの教育活動や学校経営について考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」「学校運営に教職員の意見が反映されている」で否定的評価が増えており、校長が代わったことも一因と考えられる。 ・「施設設備の点検・管理が適切に行われ、安全で円滑に利用できる状態である」「校内研修が計画的に実施され、教育実践に役立っている」「教職員間に信頼関係があり、意見を率直に言える環境、雰囲気である」で、20~30% 程度の否定的な評価があり、課題である。 <p>開校して 3 年が経過し、教育活動や学校経営に関して、試行錯誤しながら取り組んできた事が、定着し始め、安定してきたので、児童生徒や保護者から、全体を通じて高い評価を得られたのではないかと。また、教職員も連携・協力しながら、学校の様々なシステムが機能してきていると感じている。</p> <p>学校教育自己診断の結果も反映させながら、次年度も児童生徒・保護者・教職員が力を合わせて、学校づくりを進めていきたい。</p>	<p>第 1 回（6 月 8 日） 学校経営計画について</p> <p>【ワークバランスのとれた職場づくり】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残業時間については、年々落ち着いてはきている。 <p>【防犯・減災教育の充実と個人備蓄】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予告なしの避難訓練は児童生徒がどのような行動をするかなど、事前準備をしっかりと行わないと事故につながる危険性がある。 ・この付近の避難場所は、地元小学校となっている。そのため、枚方支援学校で避難するのであれば、備蓄食を整えておかなければならない。 <p>【キャリア教育プログラムの完成】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高床式砂栽培で栽培した作物を地域の朝市で販売をするのなら、協力する。自分たちで作って、収穫し食べるということはとても良いこと。 <p>【地域交流活動】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枚方支援学校は、子どもが増えれば増えるほど、地域と良い関係を築いていくことが必要で、登下校時に踏切や道に先生が立ち安全指導しているのはとても良いことだと思う。 ・地域に開かれた学校をめざし、学校の取り組みをもっと発信することが必要である。 <p>【高等部卒業生】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路先定着にむけて在籍時から障害者就業・生活支援センターとの連携が必要だと考えている。高等部の 2 年生のころから直接会って、話をしていきたい。 ・実習はとても大切だと思う。実習先の確保を頑張してほしい。 ・卒業後の就職を考えるうえで、中学部からの指導も大切である。高等支援学校を受験したい生徒にどのような指導を行っていくか考える必要がある。 <p>【平成 29 年度使用教科書の採択】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を授業の中で、有効に活用してほしい。教科書の採択については了承する。 <p>【まとめ】 今年度、校長をはじめとして、教頭、事務長すべてが、入れ替わっている。そのような大変な中だが、学校経営計画に新たな取り組みが盛り込まれていることは、とても良いことである。今後、学校、保護者、地域が連携して取り組めることを期待している。</p> <p>第 2 回（11 月 30 日） 学校教育計画の進捗状況について</p> <p>【知的障がい支援学校としての専門性向上】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部学年の枠を越えた取り組みで、地域の公園を掃除してもらっているのは、ありがたい。生徒さんも散歩で来ているところなので、地域とのつながりにもなる。 ・学習発表会の時、外に警備に立っていた PTA 役員に、地域の方から、「ごくろうさま」「寒いでしょう」と声をかけられ、つながりを実感した。 ・専門性の向上にむけた先進校の実践を学ぶ取り組みについて、出張に 3 人出すのは無理があるので、1 人が行って、伝達するのではどうか。 <p>【安全で安心な学校づくり】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19 時一斉退勤は良いことだが、朝の出勤が早くなっていたりしていないか。 ・以前は遅くまで校舎の電気がついていたが、最近はましになっていると思う。 <p>【個別の教育支援計画】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生保護者には説明会が必要。形式を先に整えると実践が遅れてくるので、課題はあるが、書き込んでいくこと、進めていくことが大切である。 <p>【地域交流活動】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「むげんファーム」高床式砂栽培で育てたチンゲン菜の販売は、宣伝の仕方をもう少し工夫し、野菜の種類も 3 種類ぐらいたればもっと売れたのではないかとと思う。 <p>【学校教育自己診断の質問項目】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の項目 23（教職員間に信頼関係があり意見を率直に言える環境、雰囲気である）についてマイナスが高いと子どもに影響が出るのではないかと。 <p>【学校防災マニュアル】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習やバス通学時の連絡の取り方を考えておく必要がある。 ・防災マニュアルは、いつでも見られるところに置いておくように。 <p>【まとめ】 防災のマニュアルはよくできている。災害はいつ起きるかわからないので、その場に適切な対応をできるように、近くにいるものが的確な判断をしないといけない。高ストレス者等の産業医面談で、なかなか周りに相談できないと聞くと、その件数は減ってきているように感じる。19 時退勤の効果も出ているのではないかと。自分が作ったものを売るのは、とても良い経験だと思うので、いろいろな経験を積んでほしい。</p> <p>第 3 回（2 月 22 日） 学校教育計画の評価について</p> <p>【知的障がい支援学校としての専門性向上】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校の様子を見学するというのは非常に興味深く、教員のモチベーションにもつながると考える。伝達講習も大切だと思う。 <p>【安全で安心な学校づくり】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のスリム化については、職員との面談などでも、前向きな意見が多く聞かれるようになってきた。教員自らが働き方を工夫するようになってきたのではないだろうか。 ・個人備蓄袋を保管する倉庫を P T A から寄付いただいた。

府立枚方支援学校

	<p>【進路状況】について 事務局より報告。</p> <p>【地域交流活動】について</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブログでの情報発信は評価できる。 • 放課後等デイサービスの迎えの車が増えているので、安全を最優先し、必要な事は府にも要望するようにしてほしい。 <p>【学校教育自己診断まとめ】について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教員それぞれが協力し合い、コミュニケーションをよりよくとりながら業務することが、働きやすさにつながる。職員数が約170名となると、学校は企業体とも言えるので、経営者目線も必要になってくる。 • 単年度で見た場合、100%をめざさなければならぬものもあるはずで、学部や分掌において検討・検証することが大切である。 <p>【1年を振り返って】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域に開かれた学校、「地域とともに、お互いが両輪になって」という気持ちで取り組んでいただけたらと思う。 • 大変な労力をもとに、年々変化されている。「何のために」ということを大切にしながら、次にあるものを意識して、いきいきと取り組んでいってほしい。 • いろいろな取り組みができるという意味で、先生方は頑張っておられる。一つひとつが児童生徒のためにという思いで取り組んでいることが結果につながっているのだと思う。 • 枚方支援学校は、地域支援コーディネーターのブロック会議や職業コースの実践交流会など前向きに考えリーダーシップを発揮していることは非常によいことである。 • これだけ建設的に変わっていかうとする組織は珍しい。これは組織としての強みになるので、今後も変わり続けてほしい。 • 年齢的にも経験的にも、そして歴史的にも若い学校は挑戦できるということが強みなので、頑張してほしい。 <p>【事務局】より</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平成30年度より、この協議会は「学校運営協議会」になる。既存の協議会との違いは、学校運営の基本的な方針についての委員の承認と、教職員の任用に関する具申である。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
知的障がい支援学校としての専門性向上	(1) 知的障がい支援学校としての専門性の向上			
	(ア) 客観的評価方法の導入準備	(ア) 「実態把握のための共通軸」となる客観的評価方法の導入に向けPTを立ち上げる。30年度以降の教員研修、試行実施に向け、検討を進める。	(ア) PTを立ち上げ、客観的評価方法を決定し、30年度以降の推進計画を作成する。	(ア) 校内でのメンバーを選定し、北河内地域支援学校6校で新たな研究会を立ち上げた。(○)
	(イ) 「指導参考資料」の整備	(イ) 初任者や新転任者が活用できる、各領域・教科の目標や実践例等をまとめた「指導参考資料」を作成する。	(イ) 全学部全領域・教科の「指導参考資料」を作成する。	(イ) 全学部にて各教科等の「シラバス」を作成中である。(△)
	(ウ) 「性教育～人との適切なかかわり方～」の研究	(ウ) 各学部共通の課題であり、保護者からも相談の多い「性教育～人との適切なかかわり方～」を中期の研究課題として設定し、研究を進める。	(ウ) 学部別で研修3回、全校研修を1回実施する。	(ウ) 全校研修を2回実施し、高等部では授業前に、中学部は3回、小学部は月1回研修を実施した。(○)
	(エ) 専門性向上に向けた先進校実践を学ぶ	(エ) 専門性向上の取組を進めるために先進校の実践を学び、本校への導入を進めるため、原則3人をユニットとした出張を行い、検討を進める。	(エ) 先進校への3人ユニットでの出張を10回程度計画し、本校への導入計画を策定する。 ※学校教育自己診断：教職員の回答「児童生徒の実態に応じた、専門性のある授業を行っている。」肯定的回答90%以上 (H28小96%、中77%、高89%)	(エ) 3人ユニットでの出張は1回、2人では2回実施したが、導入計画策定までには至っていない。(△) ※学校教育自己診断：教職員の回答「児童生徒の実態に応じた、専門性のある授業を行っている。」肯定的回答全校90% (小91%、中88%、高90%)
	(2) 学部・学年の枠を超えた活動の実施			
	(オ) 全校一斉清掃活動の充実	(オ) 全校一斉清掃活動「クリーンタイム」の活動の場を地域に広げ、学部・学年を越えた活動を地域との交流に発展させる。	(オ) 地域での清掃活動を年間3回程度、実施する。	(オ) 学校近くの地域の公園を2回清掃した。(○)
	(3) 校内・地域支援の推進			
	(カ) 北河内地域の推進校としての研究・実践	(カ) 北河内ブロックの地域支援整備事業推進校として、校内・地域支援に活用できる「教材」等のデータベース化を進める。	(カ) データベース化の資料を収集し、推進計画を作成する。	(カ) 北河内ブロック会議においてフォーマットを提示し、資料を作成中である。(○)
	(キ) ケース会議の充実	(キ) ケース会議による課題解決を通して、実践力を身に付け、知的障がい教育の専門性を高める。	(キ) ケース会議を各学部5回以上実施する。	(キ) ケース会議を全体で28回実施した。小学部で5回、中学部で11回、高等部で12回の実施した。(◎)
(ク) 教育実践発表会の実施	(ク) 通学区域内の小・中学校等に向けて、障がいの特性に応じた教材教具の紹介等を教育実践発表会として実施することで、本校の専門性を高める。	(ク) 各市の教育委員会とも連携し、教育実践発表会を実施する。	(ク) 市教委と連携し、夏季休業中(教材教具)及び冬季休業中(教育課程)に関する研修を実施した。(◎)	

府立枚方支援学校

女子安心な学校づくり	(1) 防災・減災教育の充実と個人備蓄		
	(ア) 避難訓練の実施	(ア) 様々な想定(予告をしない等)で避難訓練を実施する。個々の児童生徒がどのように避難できるかを把握し、有事に生かす。	(ア) 予告なし避難訓練を年1回実施する。必要に応じ児童生徒個々への配慮を「個別の教育支援計画」に明記する。
	(イ) 個人備蓄の実施	(イ) 学校備蓄とは別に、普段家庭で愛用しているグッズ(本、おもちゃ等)や食べ物(好きなおやつ、飲み物等)を個人備蓄として学校で保管する。	(イ) 1学期中に個人備蓄を実施する
			(ア) 予告なし避難訓練のデメリット(児童生徒への影響大)を勘案し、実施を見送った。(×) (イ) 個人備蓄の袋は準備できたが、校内での保管場所の倉庫をPTAと協力し準備中である。(○)
「個別の指導計画」の充実と活用	(2) 保護者との関係づくりの強化		
	(ウ) 不登校支援の強化	(ウ) 不登校児童生徒に登校支援を行うとともに、不登校期間における家庭での学習支援を強化する。	(ウ) 不登校児童生徒宅へ2週間に1回程度の家庭訪問を行い、毎回、家庭でできる学習教材を提供する。
	(エ) 「相談対応チーム」の設置	(エ) 問題の解決に時間を要する場合や、様々な課題に対応するための「相談対応チーム」を設置し、担任や学年団の支援を行う。	(エ) 必要な場合、「相談対応チーム」を設置し、迅速に対応する。
			(ウ) 家庭と連携し、児童生徒に合わせた電話連絡・家庭訪問等を実施した。(15ケース) (○) (エ) 2ケースについて、「相談対応チーム」での検討を実施し、問題等の解決につながった。(○)
「個別の教育支援計画」	(3) ワークライフバランスのとれた職場づくり		
	(オ) 業務のスリム化	(オ) 運動会や学習発表会などの行事の実施方法・内容等について検討を進める。また、「今はしなくてもよい業務」を削減し、業務のスリム化を行うと共に残業を大幅に削減する。	(オ) 学校経営会議・運営委員会で具体的に検討する。毎日、19:00までに全校一斉退校を実施する(1学期を目途に)。
	(カ) 各校務分掌に部門長、学年に副主任を配置	(カ) 各校務分掌に副分掌長、各学年に副主任を配置し、分掌長・学年主任の負担軽減と組織的な学校運営を行う。また、サブの担当を配置することで、次代を担う教員の育成を行う。	(カ) 全分掌に副分掌長を配置、各学年に副主任を1人配置する。次世代の教員を育成する。
			(オ) 6月中旬日より教職員の19:00までの全校一斉退校を実施した。業務削減等のアイデアを募り、メール活用等可能なものから実施中である。(○) (カ) 全分掌に副分掌長を配置した、中学部・高等部の各学年に副主任を1人配置し、次世代の教員を育成中である。(○)
(1) 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の活用			
(ア) 合理的配慮の明記	(ア) 合理的配慮について、本人・保護者と連絡・連携を密にし、合意形成を図る。	(ア) 必要ならば「個別の教育支援計画」の「合理的配慮」欄に明記する。	(ア) 「手立て」と併記して「合理的配慮」欄があり、記述方法について継続検討中である。(△)
(イ) 作成手順・様式の完成 連携ツールとしての活用	(イ) 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成手順と様式及び活用について最終検討を行う。	(イ) 作成手順及び様式を完成させ、保護者・進路先関係機関との連携ツールとして活用する。	(イ) 作成手順は完成した。様式については継続検討中である。(○)
(ウ) 保護者対象学習会の実施	(ウ) 「個別の教育支援計画」の有効活用について保護者と共に確認する。	(ウ) 「個別の教育支援計画」の有効活用について保護者対象学習会を実施する。	(ウ) 次年度の新入生の保護者対象「個別の教育支援計画」説明会を実施予定である。(○)
		※ 学校教育自己診断:保護者の回答『「個別の教育支援計画(「個別の指導計画」を含む)」は本人・保護者のニーズのもとに作成され、適切に評価されている。』 肯定的回答中学部・高等部 95%以上 (H28 小99%、中86%、高92%)	※ 学校教育自己診断:保護者の回答『「個別の教育支援計画(「個別の指導計画」を含む)」は本人・保護者のニーズのもとに作成され、適切に評価されている。』 肯定的回答全校 95% (小97%、中93%、高95%)

府立枚方支援学校

小学部・中学部・高等部一貫教育の実践 キャリア教育を柱とした	(1) キャリア教育プログラムの完成			
	(ア) 「キャリアマトリックス枚方支援学校版」の完成と活用	(ア) 「キャリアマトリックス枚方支援学校版」について新学習指導要領も視野に入れて、最終検討を行う。	(ア) 「キャリアマトリックス枚方支援学校版」を完成させ、活用についても検討する。	(ア) 「キャリアマトリックス枚方支援学校版」が完成した。活用について検討中である。(○)
	(イ) 「高床式砂栽培」の実践の深化	(イ) 本校の特色ある教育活動として、「高床式砂栽培」の充実を図る。	(イ) 年間の栽培サイクルをまとめ、年間活用計画を作成する。	(イ) 年間を通じての運用ができた。栽培サイクルをまとめ、年間活用計画を作成した。(○)
	(2) 進路指導の充実・発展			
	(ウ) 職業コースの在り方検討	(ウ) 職業コースの在り方を検討し、実践を深める。	(ウ) 職業コースの指導内容を明確にする。	(ウ) 昨年度及び今年度の指導内容を整理、年度内に完成予定である。また、府内支援学校に呼びかけ、実践交流会を実施した。(○)
(エ) 就職率のアップ	(エ) 就職希望者全員の就職をめざす。	(エ) 職業コース卒業生徒の就職率を70%以上とする。	(エ) 職業コース卒業生徒の就職率は50%であった。(△)	
(3) 教員の学部間交流				
(オ) 一日学部間交流の実施	(オ) 教員が他学部において、授業等を行い、他学部の実践を学び、学校としての一貫した教育の実現につなげる	(オ) 初任者は学部間交流を全員実施し、経験の浅い教員も可能な範囲で実施する。	(オ) 初任者(15名)の学部間交流は全員終了した。経験の少ない教員も可能な範囲で実施中である。(○)	
地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築	(1) 積極的な情報発信			
	(ア) ブログでの実践公開	(ア) 学校の実践をホームページのブログで情報発信する	(ア) ブログの更新を月5回以上実施する。	(ア) 100回を超えるブログでの情報発信ができた。(◎)
	(2) 地域交流活動			
	(イ) 栽培作物の地域での販売	(イ) 「高床式砂栽培」で栽培した作物を地域の「朝市」で販売する。	(イ) 年間3回は実施する。	(イ) 今年度は1回であるが、区長様及びJA北河内支店長様のご理解とご協力により村野駅前にて販売できた。(○)
	(ウ) 地域における「あいさつ運動」の推進	(ウ) 児童生徒会活動の場を校外にも広げ、地域における「あいさつ運動」を推進する。	(ウ) 京阪村野駅前前で実施する。	(ウ) 京阪電車様のご理解により、京阪村野駅前前で実施できた。(○)
(エ) むらの高等支援学校との交流および共同学習の充実	(エ) 学校間の交流及び学習グループ単位での交流も推進する。	(エ) 学校間交流は年間1回以上、学習グループ単位での交流は年間5回以上実施する。	(エ) 学校間交流は1回、学習グループ交流はなかったが、クラブ間交流を1回実施した。(○)	
(オ) 「ロードギャラリー」の実施	(オ) 学校正門側フェンスに児童生徒の絵画等を掲示する「枚方支援ロードギャラリー」を実施する。	(オ) 掲示物の更新を月に1回以上行う。	(オ) 準備が遅れ、現在、掲示を予定中である。(△)	
(カ) 電車を利用した校外学習の実施	(カ) 電車の駅に近いという地理的優位性を生かし、電車を利用した校外での学習の充実を図る。	(カ) 各学年年間1回以上実施する。	(カ) 各学年1回以上実施した。(小学部21回・中学部6回・高等部7回)(◎)	
(キ) 放課後等デイサービス事業所との連携	(キ) 児童生徒の利用が増加している「放課後等デイサービス」を行う事業所と、保護者の了解のもと、連携を深める。	(キ) 必要に応じて、ケース会議的な取り組みを実施する(20ケース程度)。	(キ) ※ 学校教育自己診断：保護者の回答「学校は、特色ある教育活動に取り組んでいる。」 肯定的回答中学部・高等部80%以上(H28小83%、中73%、高68%) ※ 学校教育自己診断：保護者の回答「学校は、特色ある教育活動に取り組んでいる。」 肯定的回答全体 74% (小76%、中71%、高75%)	
			(キ) ケース会議的な取り組みは3ケース実施し、児童生徒の共通理解など、成果を挙げた。(○)	